
FNIRSI

WD-02

**壁内探知器
日本語取扱説明書（参考訳）**



ご使用前に安全上の注意を必ずお読みください。

翻訳・編集：泰宕商事株式会社

参考訳 v1 / 2026-10-12

参照原本：WD-02多言語取扱説明書、英文章節11～22ページ。

本書について

本書はメーカー原本をもとに、操作・仕様・安全上の注意を日本語で翻訳・整理した参考訳です。メーカー公式の日本語版ではありません。画面の文言、仕様、付属品が異なる場合は、実機の型番・ハードウェア版と対応するメーカー原本を確認してください。

WD-02の操作・仕様・安全注意を翻訳。共通の注意も本機原版で照合し、WD-01専用のEXACT/DEEPや校正手順を流用しません。

構成

1. 安全上の注意・探知の限界
2. 概要・各部と表示
3. 初回起動・設定
4. 金属を探す
5. 異物・木材を探す
6. 異物探知が安定しないとき
7. 通電ケーブルを探す
8. 仕様・清掃・保管

1. 安全上の注意・探知の限界

- ・使用前に本書とメーカー原本を読み、保管してください。可燃性・爆発性のある環境では使用しないでください。
- ・探知器に湿気を浸入させず、探知部に水分がある場合は拭き取ります。直射日光を避け、急激な温度差にさらされた場合は本体温度が馴染んでから起動してください。
- ・電子レンジ等の送信機器、強い磁界・電磁界、湿気、金属を含む建材、アルミ被覆断熱材、導電性の壁紙・カーペット・タイルは結果へ影響します。
- ・壁・天井・床へ穴あけ、釘打ち、切断を行う前に、図面等の情報も確認してください。電気・ガス・水の配線配管がある箇所では危険な作業を行わず、貫通作業前に電源・ガス・水を止めて確認してください。
- ・指輪・時計等を外し、壁面で均一かつゆっくり移動します。持ち上げたり押付け圧力を変えたりしないでください。特に異物探知では常に壁面へ接触させます。
- ・持っている手の指が走査面に触れないようにし、他の手や身体で本体・走査面に触れないでください。
- ・廃電池・廃機器は家庭ごみに混ぜず、地域の規則に従って処分してください。

無表示は安全の証明ではありません

環境・遮蔽・素材によって通電線や配管を見逃す場合があります。探知器だけで無電圧や配管の不存在を断定せず、工事に必要な確認を別途行ってください。編集上の安全補足です。

2. 概要・各部と表示

壁・天井・床の金属（鉄筋、銅管等）、ケーブル、石こうボード下の木材・金属・ケーブルを探知します。結果は対象の材質・大きさ・表面状態・通電状態に影響されます。非通電のケーブルは探知深度が低下します。

各部	用途
カラー画面・黄／赤／緑表示灯	探知結果と状態。
中央の穴	探知の中心、マーキング用。
右の金属／ケーブルキー	短押しで金属とACを切替。設定では項目・値の選択。
左の異物キー（木目）	短押しで木下地等の異物モード。設定では決定等。
上部電源キー	短押しでオン／オフ。
Type-C・リセット穴	充電とリセット用。原本にリセット穴の具体手順はなし。

Type-C、5V、供給可能電流500mA以上の安全な充電器を使用します。画面は金属・AC・異物モード、磁性／非磁性、音、電池、信号強度・方向、金属深度を表示します。深度は探知中心から対象までの距離です。原本に充電表示灯の色の説明はなく、他機種の色を転記しません。

3. 初回起動・設定

初回起動では言語の選択へ入ります。電源を短押しして起動すると金属モードです。左の異物キーで木下地等の探知へ、右の金属／ケーブルキーで金属とACを切り替えます。

両探知キーを同時に短押しして設定へ入り、同じ操作で終了します。設定内は右キーで項目を選択、左キーで入ります。右キーで値を選び、左キーで確定し、もう一度左キーで前の画面へ戻ります。

設定	原本の内容
Sensitivity	低／中／高の3段階
Language	6言語。原本に名称一覧はないため、日本語対応は断定しません。
Volume	オン／オフ
Length unit	cm／in
Shutdown time	5分／10分／15分
Restore	設定を復元。消去される項目の詳細は原本に明記なし。

WD-01のEXACT／DEEP切替や両キー同時操作による音だけの切替を、本機の設定操作へ流用しないでください。

4. 金属を探す

起動すると金属モードになります。右の金属／ケーブルキーで金属モードを選び、緑表示と金属記号を確認します。原本に金属モードの空中校正手順は明記されていないため、WD-01の長押し校正を転記しません。

金属モードで対象面へ当て、左右いずれか一方へ水平に動かします。金属へ近づくと信号の棒・百分率が増え、離れると減ります。最大となりCenterが出る位置は、対象が探知中心下にあると機器が判定した位置です。

金属検出で黄または赤表示と連続音を出します。AC記号が点滅する場合は付近の交流信号を示します。

非磁性表示は一般に電線・銅管、磁性表示は一般に鉄筋、いずれも表示しない場合は一般に合金という原本の目安です。AC記号の点滅は付近の交流信号を示します。材質の確定試験ではありません。最後の文は編集上の補足です。

深度表示の条件

深度は探知中心から対象までの距離です。形状・材質・配置・周囲の媒質によって精度が変わります。原本では直径18mmの標準鉄筋または銅管で最も良い条件としています。他の条件では大まかな参考値です。

5. 異物・木材を探す

異物モードは石こう乾式壁、合板、木製床、塗装木壁内を対象とします。コンクリート、モルタル、ブロック、レンガ、カーペット、箔張り材、金属面、タイル、ガラス等の高密度材内には適用できません。水分・材質・壁の凹凸・塗装で深度と精度が変わります。

木材だけでなく金属・高密度材、水の入った管・プラスチック管等にも反応する場合があります。先に金属走査して位置を記録し、その後異物走査で反応し金属走査で反応しない箇所が木の下地の候補です。

1. 左の異物キーを短押ししてモードへ入ります。最大深度は38mmです。参照原本にEXACT／DEEP切替はありません。
2. 本体を垂直に壁へ密着させ、1～3秒静止します。緑表示で校正完了を確認してから走査してください。誤反応時の手動再校正は次章を確認します。
3. 壁から離さず、一定圧力でゆっくり同じ方向へ動かします。対象の手前端でEdgeと片側の境界記号、中心でCenterと両側の境界記号・赤表示・長いブザー、信号最大を示します。
4. 同じ方向へ続けると中心表示とブザーが消え、反対側の端でEdgeを表示します。さらに離れると信号・境界記号が消え緑になります。繰り返し測定して位置を確認します。

異物とACを同時検出するとAC記号が点滅し短い音が鳴ります。ACだけを検出した異物モードではAC記号のみ点滅します。

6. 異物探知が安定しないとき

- ・自動校正できない・誤反応が出る場合は、壁面で異物キーを短押しして再校正し、緑表示を確認します。
- ・木下地の真上で校正した場合は、下地の範囲外へ移動し、そこから下地へ戻って再走査します。
- ・壁内部・石こう壁の湿気、乾き切っていない塗料・壁紙は、見た目に水分がなくても干渉します。乾燥を待って再測定してください。
- ・凹凸や環境条件で木下地を探せない場合は、金属モードで下地へ留めた釘等を探す方法があります。
- ・壁近くの線・管も異物と同様に検出する場合があります。釘打ち・切断・穴あけ時は、含まれる可能性のある物を考慮して安全を確認してください。

7. 通電ケーブルを探す

原本の最大深度50mmの条件は220V/50Hzまたは110V/60Hzです。日本の一般的な100V条件へ同じ深度を保証するとは確認していません。最後の文は編集上の条件補足です。

右の金属／ケーブルキーでACモードを選び、AC記号を確認します。対象面全体で信号が出る場合は、その面でキーを長押しし、ゼロ・緑表示となったら離して校正します。

面へ当て、左右同じ方向へゆっくり移動します。線へ近づくと信号が増え、離れると減ります。英文章節は最大位置でCenter、黄／赤と短いブザーを示すと説明しています。画面記号は実機を確認してください。

- ・金属化・導電面、金属管による遮蔽、高含水率・湿度では通電線を確実に探せません。コンクリート・レンガ・セラミックも電界を遮蔽し深度へ影響します。

- ・負荷が接続されて動作している交流線は探知しやすいと原本は説明しています。探知目的で危険な通電作業をしないでください。後半は編集上の補足です。

- ・電界は線の両側へ広がるため、警告範囲が実際の線幅より広くなる場合があります。

- ・室内全体で反応する場合、湿気・静電気・電磁干渉が原因となることがあります。校正してもゼロにならない場合は、湿度が下がるのを待つか周辺機器を止めて再試験します。

- ・原本は静電気対策として隣の壁面に手を当てる方法も記載しますが、一般注意は他の手で走査面へ触れないよう指定しており不一致があります。本書は危険な表面へ手を当てる操作を推奨せず、環境改善・再校正・メーカー確認を優先します。

- ・信号は線の位置に左右されます。周辺の再測定や他の情報と照合してください。

- ・非通電の単線銅線は金属として反応するか、反応しない場合があります。原本では非通電のより線銅線は探知できないと記載しています。

8. 仕様・清掃・保管

項目	原本の値
電池	3.7V、300mAh
寸法	138×68×22mm
連続使用／自動終了	約2時間／基本仕様約5分（設定は5／10／15分）
最大深度：鉄系金属	120mm
最大深度：非鉄（銅）	100mm
最大深度：交流信号	50mm（220V/50Hz、110V/60Hz）
最大深度：単線銅線	40mm（断面積4mm ² 以上）
最大深度：異物	最大38mm
使用湿度	金属0～85%RH／異物0～60%RH／AC 0～30%RH
使用温度／保管温度	-10～50 °C／-20～70 °C
充電	Type-C、5V、供給可能電流500mA以上

原本仕様と実機確認
参照原本の寸法は138×68×22mm、電池300mAhです。他の販売資料・実機と異なる場合はハードウェア版をメーカーへ確認してください。本書は原本値を保持し、推測で変更しません。

最大深度は条件付きの公称値です。材料・大きさ・表面状態で変わります。金属モードの深度表示は概略参考値です。
乾いた柔らかい布で汚れを拭き、洗剤・溶剤は使用しないでください。前後の探知部ヘラベル・銘板、特に金属銘板を貼らないでください。付属の保護ケースで保管・持運びし、機器・付属品・包装は環境に配慮して再資源化してください。

参照資料とお問い合わせ

参照原本：WD-02多言語取扱説明書、英文章節11～22ページ。

原本の製造元：Shenzhen FNIRSI Technology Co., Ltd.

メーカー資料：<https://taigo-shoji.co.jp/manuals/fnirsi/wd-02-multi-4a9c59806516.pdf>

製品・相談窓口：taigo-shoji.co.jp

お問い合わせ：support@taigo-shoji.co.jp

保証・初期不良対応は購入先の案内をご確認ください。原本にあるメーカー独自の保証延長、販売条件、広告表現は、泰宕商事の保証条件として転記していません。

原本との対応

原本の章・ページ	本書での扱い
11～12ページ	安全、充電、干渉・作業前の注意を全項目保持。
13～16ページ	画面、各部、全仕様、初回起動、設定の図記号を目視照合。
17ページ	金属探知と深度表示の条件。
18～20ページ	異物探知、手動校正、誤反応対処、AC探知。
21ページ	AC探知の全制限・静電気記述の不一致を注記。
22ページ	清掃・ラベル禁止・保管・メーカー情報。